



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉カキ部会

5

## カキ養殖再生の取り組み

宮城県南三陸町の海や複雑に入組んだリアス式海岸には、多様な自然環境が広がり、多種多様な生物が生息している。その志津川湾の南に位置する戸倉地区はカキの養殖地として知られているが、東日本大震災によって養殖漁場は壊滅的な被害を受けた。しかし復興の過程で、これまでよりも短期間で、より身入りの良いカキがとれる漁場を作り上げた。その方法は養殖イカダの台数を減らすという、きわめてシンプルなものだった。この逆転の発想により、戸倉のカキ養殖は環境共生型の漁業として注目され、「戸倉っこかき」は全国に知れるようになった。

10

15

### 震災前の戸倉のカキ養殖

志津川湾はリアス式の開放性内湾なので海水交換がよく、波当たりも弱いため、古くからカキやワカメなどの海面養殖が盛んに行われている。また、リアス式海岸特有の山と海が近接した地形のため、志津川湾には山の養分が直接湾へと注ぎ、湾の海底では至るところで真水が湧いている。現在、戸倉地区では96の経営体が、カキ、ワカメ、ホタテ、ギンザケなどの養殖に携わっていて、そのうち約3分の1がカキの養殖を行っている。志津川湾では「延縄式垂下養殖法」でカキを育てている。これは、海面に浮かべたブイをロープではし



20

25

本ケースは 宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉カキ部会 部会長の後藤清広氏へのインタビューをもとに磯辺剛彦教授が作成した。本ケースはクラス討議の基礎資料として用いるもので、経営上の適切もしくは不適な状況を例示しようとするものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 磯辺剛彦（2022年1月作成）